

令和2年度 放課後活動指導者研修 実施報告④

実施日：令和2（2020）年9月2日（水）

○講 話

「子どもを理解しよう～発達障害の基本的な理解と対応について～」

栃木県発達障害者支援センターふお一ゆう職員 武田 沙織 氏



今回は、発達障害の基本的な理解と、発達障害の支援・対応の在り方について、講師の武田氏が豊富な映像資料を活用しながら、丁寧にお話してくださいました。

まず、自閉スペクトラム症・注意欠陥多動性障害・学習障害の3つの発達障害について、その特性をお話しいただきました。それぞれの発達障害で、具体的にどのような言動が出現するかを端的に示していただけたので、受講者はそれぞれの特性を確認しやすかったようです。加えて、これらの発達障害の根本的な治療法は確立されていないことや、同じ診断名でも特性の現れ方に個人差があることなどから、一人一人の特性を正しく理解し、苦痛や混乱を招きにくい環境を整えたり、得意なことを活かせるようにしたりすることが、社会への適応に大変重要であることも改めて確認できた様子でした。

後半では、発達障害の人々に対して求められる支援の在り方について、映像の提示や、自分や子どもの現状を「いいところ」「努力しているところ」「困ったところ」に分けて書き出す『ペアレントプログラム』の体験などを通して、具体的に説明いただきました。支援の一つとして示された「良いところを伸ばす」という点について、受講者は、発達障害のいろいろな特性が、視点を変えるとその人の「強み」ともなることを再確認できたようです。また、ペアレントプログラムの体験を通して、「普段でできている行動（適応行動）」はその人の『いいところ』と捉えられる、という気付きも得た様子でした。

武田氏は、終始優しく聞き取りやすい声で、具体例を挙げながら、誰にでも広く理解しやすい言葉を用いてお話しくださいました。まさに発達障害の人々へのふさわしい支援の在り方に通ずるものであり、「誰に対しても分かりやすい話し方」の実例を示していただきました。

受講者は、これまでの子どもたちへの関わり方や支援の仕方を振り返り、今後どのように接していくべきかを考えることができたようです。



★ 受講者の声 ★

- ・ 分かりやすい内容で具体的な話が 많かったので、発達障害のある方々にどう接すれば良いかを学べた。
- ・ 発達障害のある人への適切な指導や、彼らの学習のスタイルを理解することができた。
- ・ 一人一人と向き合うことが大切で、あたりまえにできることがいいところである、と考えられるようにしたい。
- ・ 診断名が同じでも、特性の現れ方がそれぞれ異なるので、それに合わせた支援をしなくてはならない点が難しく感じられた。
- ・ 改めて発達障害についての理解を深めることができた。一人一人の子どもの特性を理解しそれを活かせる支援をしていきたい。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206

e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp